

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 アカガレイ

学名 *Hippoglossoides dubius*

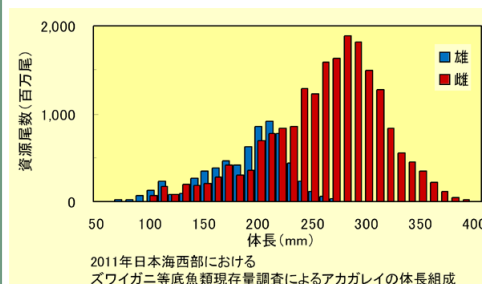
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 20歳
成熟開始年齢: 京都府沖の50%成熟体長は雌25cm、雄17cm
産卵期・産卵場: 2~4月に水深180~200mで産卵、主な産卵場は粟島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在
索餌期・索餌場: 周年、分布域全体(水深150~900m)
食性: クモヒトデを周年摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食
捕食者: 幼稚魚は不明であるが、成魚の捕食者はいない

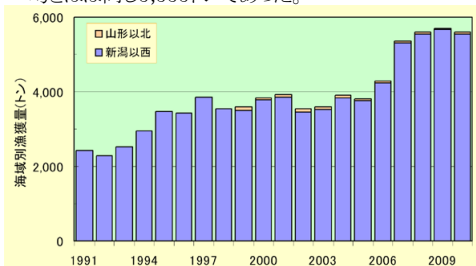


漁業の特徴

日本海のアカガレイの9割以上が底びき網で漁獲され、その他は僅かに刺し網で漁獲される。府県別農林水産統計値のある1991年以降では、沖合底びき網の1そうびき(以下、沖合底びき網と呼ぶ)が全体の4~6割を占めている。例年、鳥取県、兵庫県、福井県、石川県の漁獲量が多い。

漁獲の動向

沖合底びき網の漁獲量は、1981年が最高でそれ以降約10年間減少し続け、1992年に最低となった。1991年から記録のある日本海での総漁獲量でも1992年は約2,300トンで最低であった。その後日本海での総漁獲量は、1990年代後半に増加して2000年前後は約3,500トンで推移し、2005年前後から顕著に増加し、2010年の漁獲量は直近3ヶ年平均とほぼ同じ5,555トンであった。



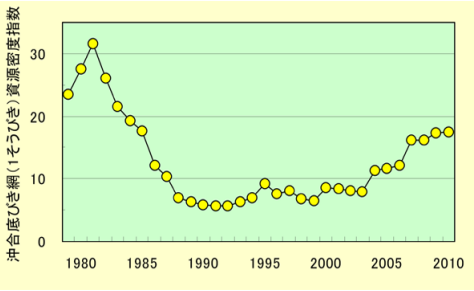
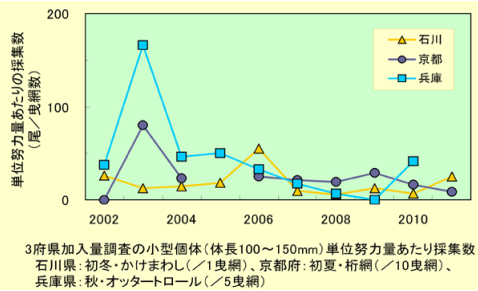
資源評価法

日本海における総漁獲量と沖合底びき網の漁獲成績報告書から求めた資源密度指数から資源状態を判断した。さらに、新規加入量調査(石川県、京都府および兵庫県)とズワイガニ等底魚現存量調査(日本海西部、5~6月)などから今後の加入状況を考察した。水準の判断には沖合底びき網の資源密度指数を用い、過去の最高値を3等分する値の「10」(低位-中位)および「20」(中位-高位)を基準とした。

資源状態

日本海における漁獲量は、卓越した2001年級群の影響により2005年ごろから顕著に増加してきたが、2007年以降は5,000トン以上で推移し、2010年の漁獲量は前年よりごく僅かに減少して、2007~2009年の平均と同程度の5,555トンであった。沖合底びき網の資源密度指数もほぼ同様の傾向であった。2004年から10以上となり、2007年以降は16~17で推移し、2010年も17であった。漁獲量も資源密度指数も、2005年ごろから数年続いた顕著な増加傾向はみられなくなり、直近3年では横ばいであった。また、2001年級群に続く卓越年級はまだ認められない。





管理方策

日本海における漁獲量は2007年以降5,000トンを超えており、比較的多いと言える。しかし、漁獲量をはじめ各指標値の動向は、2005年ごろのような顕著な増加傾向はみられず、いずれも横ばいと判断できる。しかし、2001年級群に続く卓越年級が出現していない。アカガレイは長寿命であるので、現状よりもやや漁獲圧を下げて2001年級群をより長く利用しながら、新しい加入を待つべきである。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	5,000トン	0.9Cave3-yr	—	—
ABCtarget	4,000トン	0.8・0.9Cave3-yr	—	—

- 100トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 資源の水準は中位、動向は横ばいである
- アカガレイは長寿命で、卓越した2001年級群は、依然、漁獲されている
- 2001年級に続く卓越年級は認められていない

管理方策のまとめ

- 現状よりもやや漁獲圧を下げる
- 2001年級群をより長く利用しつつ、新しい加入を待つべきである

執筆者: 藤原邦浩・上田祐司・松倉隆一

資源評価は毎年更新されます。